

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0475201042		
法人名	有限会社ウェル創建		
事業所名	認知症高齢者グループホームふれあいの家白鳥(ユニット名 東棟)		
所在地	宮城県仙台市宮城野区白鳥1丁目34-12		
自己評価作成日	令和2年12月8日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和3年1月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

震災の被災地域という事もあり地域と密着したいと考え、地域との交流を大事にしています。しかし今年にはコロナの影響により地域との交流が図れませんでした。それでも事業所内でできる事を考え楽しく過ごして頂けるように今年はずっと以上を力を入れました。(事業所の敷地内で夏祭り、芋煮会、防災訓練など)
今年も高砂中学校から職場体験の依頼来たのですが残念ながらお断りしています。ですが、コロナが落ち着けば職場体験にも力をいれ少しでも認知症の理解と交流が図れるようにしていきたいと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR陸前高砂駅から車で約5分、七北田川沿いにあり、日当たりが良い閑静な住宅街に2階建ての「グループホームふれあいの家白鳥」がある。開設17年目を迎え、近隣住民と顔馴染みであり、入居者が離脱した時ホームに連絡をくれた。運営推進会議に2つの町内会会長と、4名の民生委員の参加があり、地域の情報が入る。コロナ禍で不要不急の外出が出来ないので、活動を増やしたり入居者の希望に沿って食べたい物の購入や皆で調理する等、ホーム内で楽しめるように取り組んでいる。職員は職員同士や入居者とのコミュニケーションを大切にしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 ふれあいの家 白鳥)「ユニット名 東棟 」

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の朝礼時に理念を唱和しその日のケアに向けて共有している。	基本理念と職員のアンケートを基に作成したホーム理念を、事務所に掲示している。理念の「コミュニケーションを図る」を意識し、職員は話しやすい雰囲気を中心掛け、入居者との会話で繋がりを大切にしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年はコロナの影響で地域との交流はかからず。	町内会に加入している。回覧板で地域の情報を把握している。コロナ禍以前は、小学生や園児が来訪し、歌や踊りを披露してくれた。中学校からもらった、ひまわりの種を庭に植え、成長を楽しみにしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年はコロナの影響で地域との交流はかからず活かしてきていない。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見をサービス向上に活かしている	今年度はコロナで開催できず書面にて開催し苑での行っている事を報告しています。意見書も頂き参考にしています。	書面を送付する開催が多い。メンバーから頑張ってくださいとの励ましの声があった。6月の開催は、地域包括職員の要望で17時から開始し、目標達成計画の参加が達成された。家族の参加が課題である。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村との連携は図れていると思います。わからないことがある際は聞いて下さいます。	介護認定の更新手続きや、生活保護の書類提出等で、月に1~2回訪ねている。「認知症ケア講座」の案内があり、参加し日々のケアを見直すことができた。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	平成29年に7月に玄関のドアのシステムが変更となり自由に入出入りできるようになりました。又、身体拘束をしないケア実践を取り組みとしてアンケートBOX設置しています。勉強会も行いケアに取り組んでいます。	身体拘束委員会で、実例を基に話し合っている。身体拘束廃止を進めるための事業所自己点検シートでチェックしている。玄関を自動ドアに変更したので、鈴を付けた。荷物を持って玄関に来る方には、一緒に散歩をし支援している。		
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を実施し理解と防止に努めています。	高齢者虐待防止法はマニュアルに沿い、概要や責務、定義等を学んだ。「待ってて」ではなく、「お待ちください」「1分待っていただけますか」等、声のトーンを下げ、ゆっくり具体的に伝えるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修にて理解を深めている。まだ全体には伝達できていないが、個別で話し合いケアの方向性を確認している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際に丁寧に説明しており、ご理解頂けたか確認しながら行っている。また面会時にも質問があれば対応している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来所時や電話にて意見を聞かせて頂いている。また管理者、計画作成者・リーダーが、利用者様とご家族様から意見や要望を聞かせていただいている。	自粛しているが要望により、玄関先で10分程度の面会をし、「写真が撮れた」と家族が喜んでいた。「足裏マッサージ器を使わせたい」「氷川きよしのCDを聞かせたい」等の要望に対応した。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員間から出た意見を、リーダー会議や、定期訪問時に会長、社長に報告行っている。	職員の提案で、就寝中ベッド内で回転し、柵に足等をぶつける方の柵にカバーを被せ、怪我の防止をした。資格取得を希望する職員には、受講料の助成やシフトの調整、情報提供等の支援をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務年数や資格に応じて給与水準を上げている。また、12月より役職が増えた事で各自が向上心を持って働けるような環境・整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	交代勤務のため、全員での勉強会が難しい。外部から呼んで勉強会を開催したり、できるだけ本人希望の市の研修に参加できるように配慮している。外部研修資料を皆が自由に見れるように事務所に置いている。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社長を交えて、系列の施設4箇所の管理者が、毎月管理者会議に参加している。お互いの情報交換等を行い、ケアに活かしている。社外以外の同業者との交流も積極的に行っている。	系列施設の管理者会議で、入居者のホームでの過ごし方や入浴時の工夫等具体的な取り組みを話し合い情報交換している。福祉用具レンタル会社の講習会で、用具の価格やパッド、オムツのあて方等を教わった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実態調査時はもちろん、入居時ご本人の希望や不安を聞いて安心できる関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご自宅で困っていた事、入居に際して不安や要望をお聞きするようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様やご家族様の思い、状況等を確認し、改善に向けた支援を提案、相談を行い、信頼関係を築くようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の体調や、能力に合わせて、炊事、洗濯、掃除等の生活面での仕事を一緒に行っている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様が来所した時や電話をかけた時に報告、相談をし、情報共有している。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今年はコロナの影響で支援がほぼ行えていない。	友人と、年賀状のやり取りをしている入居者がいる。家族からプレゼントや差し入れがあった時、お礼の手紙を書いて送るように支援している。携帯電話で、家族や友人に連絡をしている方がいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士でトラブル見られることもある為、職員が間に入り対応しているので関わりあえている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご本人様はもちろんですがご家族様にも支援を行う体制を整えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の会話の中や、職員、他入居者様との対応、テレビを見ての反応などでもご本人様の思いを推察し、把握するように努めている。ご家族様からも情報を得るようにしている。	入居者の花が見たいとの要望で、農業園芸センターに行った。映画を観たいとの声があり、ホールを暗くしポップコーンを食べながら、洋画を鑑賞した。言葉が出難い方は、普段しない行動から思いを汲み取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に生活歴をお聞きしているが、入居後も会話の中やご家族様からの情報を得られる時がある。記録に残して情報を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の介護記録でその方の毎日の状況を記録し、把握している。スタッフ同士で情報共有できるように意識している。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	聞き取りは、主に計画作成者が行っている。スタッフ間では、会議で話し合い、意見を出し合っている。又、日頃の記録に情報を書いてもらい、スタッフの聞き取りも行っている。	本人と家族の思いをアセスメントし、居室担当職員の意見を参考に、3か月毎に見直している。ユニット会議で内容を共有している。昼夜逆転の入居者に、日光浴を多くする等計画書に盛り込んだ。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の介護記録や連絡帳があり、全て把握できるようにしている。支援記録はケアプラン作成に活かしている。日々の情報交換や会議での話し合いの内容を反映させプランを作成している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	車椅子の方には介護タクシーを利用したり、苑車にて対応したりしている。通院が難しい方には往診を勧めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	オムツ券やタクシー券を利用して負担を少なくしている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間対応の往診を受けている方が多い。往診以外の方も、かかりつけ医の診察を月1回受けられるよう支援している。家族から依頼を受け、耳鼻科や整形外科受診も職員対応している。	本人と家族の了解を得て、3月から同じ訪問医療を受診することになった。眼科等他科受診は、職員が同行している。歯科医は月1～2回の来訪し、治療と口腔ケアの指導をしている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回訪問看護師が来所し、健康状態を見てくれる。それ以外でも24時間相談に応じてくれる。場合によっては往診の医師に連絡を取り、指示をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合はご家族様、医師と今後について話し合いの時間を持つようにしている。入院時に苑での情報提供している。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期についてホームでできる事、できないことの説明は、させてもらっている。往診と契約している方で必要な方は、医師と終末期について話をしてもらっている。	入居時に「重度化及び看取りの指針」と「看取りにおける確認事項」を本人と家族に説明している。重度化した場合は状態の変化に応じて、段階的に医師と家族、関係者で話し合いを行っている。看取りの経験はある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今までの事故を振り返り、事故の予測を考えていくことの話合いは出来ているが、実践力にかけるので定期的に研修等を開催したい。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	6月と11月に消防訓練2回実施し全職員と訓練している。	夜間想定を含め、年2回行った。拒否する方には、「外で空気を吸ってみよう」と声掛けした。署員から、台所のカーテンを不燃布にするよう助言があった。職員からは、避難者の優先順位を決める等の反省が出た。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	考慮しながら伝わりやすい言葉を選んで声掛けを行っている。拒否がある時は時間を置いたり、職員を変えて対応している。言葉使いが馴れ合いにならないように気をつけている。	苗字にさん付けである。本人と家族の希望で、名前にちゃんの方もいる。「買い物に行きたい」「以前の家にいきたい」等、希望が叶えられるように配慮している。飲み物やおやつは、好きな物を選んでもらっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	10時のお茶の時や、外食時には、何が良いのか選択していただいている。おやつも毎回ではないが、選択できるようにし本人の意思を聞くようにしている。したいことや、行きたい所も誕生日などに、叶えられるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室やリビング等で、個人で過ごしやすい場所で過ごしてもらっている。食事する時間や場所も希望に沿うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髭剃りや爪きりは、できない方は職員が支援している。衣類は希望によって職員同行して購入支援を行っている。訪問理美容にきてもらい、髪の毛も本人の好みで染めたり、カットしてもらっている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	じゃが芋や人参・玉ねぎなどの野菜の皮むきなどやっていた方が減ってきているが、盛り付け、食器拭きなど手伝っていただいている。	配食業者を利用している。月1回のご当地料理を、楽しみにしている。3食とも職員と一緒に食べる。大判焼き屋台の来所と、おやつのパンビュッフェは好評である。入居者から、きりたんぼ鍋の作り方を教わった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	心臓の病気の方は、体重の増減に関しては医師と相談し提供する量を決めている。個別にドリンクゼリー・ヨーグルト・卵豆腐等購入し、その方の身体に必要な補食を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。仕上げが必要な方は職員が介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使い、排泄のパターンを把握し、必要あれば、トイレ誘導をしている。自らトイレに行く場合はパットの確認をさせていただいている。	自立の方は14人でオムツ使用はない。食事前にトイレ誘導の声掛けをしている。夜間は3回見廻る。トイレ誘導やパッド交換を行うが、熟睡している場合は睡眠を優先し、その人に合わせた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時に牛乳や水を飲んでいただいている。腹部マッサージや温めを行っている。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	最低週2回は入浴していただけるよう声をかけさせていただいている。本人の状態や体調に合わせて、清拭等を行っている。	浴室と脱衣所は暖房を完備している。心地良く入れるように、ゆず湯や茶風呂等工夫している。拒否する方に、好きな曲をかけるなど工夫した。無口な方が昔の仕事をしたり、懐メロを歌う等楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	朝食後、昼食後、おやつ後と部屋で休みたい方には休んでいただいている。夜間眠れなくなる方は早めに起きていただくよう声掛けさせていただいている。本人のこだわりに合わせて、布団の好みや、室温を調整、湯たんぽ準備をして、眠りやすい環境を作っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬チェック表を作成して間違いのないようにしている。職員間でミスが起きないようにダブルチェックをしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除、洗濯物たたみ、食器拭き等の、その方のADLにあわせた役割をしてもらっている。買い物に行くことで気分転換になるので苑の買い物や本人の買い物をしてもらっている。花の好きな方は草取り、花植え、フラワーアレンジメントなどできるように支援している。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望時に外出出来ない時があるので、買い物や外出の予定を立てて出かけるようにしている。	外出の年間計画はあるが、コロナ禍で自粛している。ホームの広い駐車場に椅子を出し、白梅を鑑賞したり、芋煮会を行う等、外気に触れて外出気分を味わった。ベランダにテーブルを出し、お喋りしながら、ティータイムを楽しんでいる入居者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全員のおこづかいは苑の事務所で預かり、金銭管理をしている。買い物時は支払いができる方には財布を渡して支払ってもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたい時は事務所の電話を貸して話をしていただいている。家族からの贈り物にお礼の手紙を書いて送れるように支援している。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの壁には季節毎に壁飾りを貼って季節を感じていただいている。	入居者と職員が作成した、ちぎり絵の鬼が飾っており、季節感を出している。職員が持って来た花の苗を庭やプランターに植え、入居者が水遣りをしている。冷暖房完備で、加湿器を設置している。午前と午後に空気の入替えをし、換気と感染対策をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様同士の関係を配慮した席にしている。ソファの配置は利用者同士が話し易い位置にしている。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から使い慣れた家具や位牌を持って来てもらっている。家具を持ってきていない無い方は、必要に応じて購入支援を行っている。	クローゼットとエアコン、ベッドが備え付けである。家族の写真や飾り、位牌を置いている方もいる。寒がりの入居者が、湯たんぽや電気毛布を使っている。名前の木札は、裏が避難済みの記し(赤字)になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室のドアに名札やカッティングシールの色で分かりやすくしている。又、トイレ・便所など個々に呼び方が違うため分かるようにしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0475201042		
法人名	有限会社ウェル創建		
事業所名	認知症高齢者グループホームふれあいの家白鳥(ユニット名 西棟)		
所在地	宮城県仙台市宮城野区白鳥1丁目34-12		
自己評価作成日	令和2年12月8日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和3年1月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

震災の被災地域という事もあり地域と密着したいと考え、地域との交流を大事にしています。しかし今年にはコロナの影響により地域との交流が図れませんでした。それでも事業所内でできる事を考え楽しく過ごして頂けるように今年はずっと以上を力を入れました。(事業所の敷地内で夏祭り、芋煮会、防災訓練など)
今年も高砂中学校から職場体験の依頼来たのですが残念ながらお断りしています。ですが、コロナが落ち着けば職場体験にも力をいれ少しでも認知症の理解と交流が図れるようにしていきたいと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR陸前高砂駅から車で約5分、七北田川沿いにあり、日当たりが良い閑静な住宅街に2階建ての「グループホームふれあいの家白鳥」がある。開設17年目を迎え、近隣住民と顔馴染みであり、入居者が離脱した時ホームに連絡をくれた。運営推進会議に2つの町内会会長と、4名の民生委員の参加があり、地域の情報が入る。コロナ禍で不要不急の外出が出来ないので、活動を増やしたり入居者の希望に沿って食べたい物の購入や皆で調理する等、ホーム内で楽しめるように取り組んでいる。職員は職員同士や入居者とのコミュニケーションを大切にしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 ふれあいの家 白鳥)「ユニット名 西棟 」

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の朝礼時に理念を唱和しその日のケアに向けて共有している。	基本理念と職員のアンケートを基に作成したホーム理念を、事務所に掲示している。理念の「コミュニケーションを図る」を意識し、職員は話しやすい雰囲気を中心、入居者との会話で繋がりを大切にしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年はコロナの影響で地域との交流はかからず。	町内会に加入している。回覧板で地域の情報を把握している。コロナ禍以前は、小学生や園児が来訪し、歌や踊りを披露してくれた。中学校からもらった、ひまわりの種を庭に植え、成長を楽しみにしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年はコロナの影響で地域との交流はかからず活かしてきていない。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見をサービス向上に活かしている	今年度はコロナで開催できず書面にて開催し苑での行っている事を報告しています。意見書も頂き参考にしています。	書面を送付する開催が多い。メンバーから頑張ってくださいとの励ましの声があった。6月の開催は、地域包括職員の要望で17時から開始し、目標達成計画の参加が達成された。家族の参加が課題である。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村との連携は図れていると思います。わからないことがある際は聞いて下さいます。	介護認定の更新手続きや、生活保護の書類提出等で、月に1~2回訪ねている。「認知症ケア講座」の案内があり、参加し日々のケアを見直すことができた。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	平成29年に7月に玄関のドアのシステムが変更となり自由に入出入りできるようになりました。又、身体拘束をしないケア実践を取り組みとしてアンケートBOX設置しています。勉強会も行いケアに取り組んでいます。	身体拘束委員会で、実例を基に話し合っている。身体拘束廃止を進めるための事業所自己点検シートでチェックしている。玄関を自動ドアに変更したので、鈴を付けた。荷物を持って玄関に来る方には、一緒に散歩をし支援している。		
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を実施し理解と防止に努めています。	高齢者虐待防止法はマニュアルに沿い、概要や責務、定義等を学んだ。「待ってて」ではなく、「お待ちください」「1分待っていただけますか」等、声のトーンを下げ、ゆっくり具体的に伝えるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修にて理解を深めている。まだ全体には伝達できていないが、個別で話し合いケアの方向性を確認している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際に丁寧に説明しており、ご理解頂けたか確認しながら行っている。また面会時にも質問があれば対応している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来所時や電話にて意見を聞かせて頂いている。また管理者、計画作成者・リーダーが、利用者様とご家族様から意見や要望を聞かせていただいている。	自粛しているが要望により、玄関先で10分程度の面会をし、「写真が撮れた」と家族が喜んでた。「足裏マッサージ器を使わせたい」「氷川きよしのCDを聞かせたい」等の要望に対応した。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員間から出た意見を、リーダー会議や、定期訪問時に会長、社長に報告行っている。	職員の提案で、就寝中ベッド内で回転し、柵に足等をぶつける方の柵にカバーを被せ、怪我の防止をした。資格取得を希望する職員には、受講料の助成やシフトの調整、情報提供等の支援をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務年数や資格に応じて給与水準を上げている。また、12月より役職が増えた事で各自が向上心を持って働けるような環境・整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	交代勤務のため、全員での勉強会が難しい。外部から呼んで勉強会を開催したり、できるだけ本人希望の市の研修に参加できるように配慮している。外部研修資料を皆が自由に見れるように事務所に置いている。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社長を交えて、系列の施設4箇所の管理者が、毎月管理者会議に参加している。お互いの情報交換等を行い、ケアに活かしている。社外以外の同業者との交流も積極的に行っている。	系列施設の管理者会議で、入居者のホームでの過ごし方や入浴時の工夫等具体的な取り組みを話し合い情報交換している。福祉用具レンタル会社の講習会で、用具の価格やパッド、オムツのあて方等を教わった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実態調査時はもちろん、入居時ご本人の希望や不安を聞いて安心できる関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご自宅で困っていた事、入居に際して不安や要望をお聞きするようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様やご家族様の思い、状況等を確認し、改善に向けた支援を提案、相談を行い、信頼関係を築くようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の体調や、能力に合わせて、炊事、洗濯、掃除等の生活面の仕事を一緒に行っている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様が来所した時や電話をかけた時に報告、相談をし、情報共有している。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今年はコロナの影響で支援がほぼ行えていない。	友人と、年賀状のやり取りをしている入居者がいる。家族からプレゼントや差し入れがあった時、お礼の手紙を書いて送るように支援している。携帯電話で、家族や友人に連絡をしている方がいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士でトラブル見られることもある為、職員が間に入り対応しているので関わりあえている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご本人様はもちろんですがご家族様にも支援を行う体制を整えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の会話の中や、職員、他入居者様との対応、テレビを見ての反応などでもご本人様の思いを推察し、把握するように努めている。ご家族様からも情報を得るようにしている。	入居者の花が見たいとの要望で、農業園芸センターに行った。映画を観たいとの声があり、ホールを暗くしポップコーンを食べながら、洋画を鑑賞した。言葉が出難い方は、普段しない行動から思いを汲み取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に生活歴をお聞きしているが、入居後も会話の中やご家族様からの情報を得られる時がある。記録に残して情報を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の介護記録でその方の毎日の状況を記録し、把握している。スタッフ同士で情報共有できるように意識している。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	聞き取りは、主に計画作成者が行っている。スタッフ間では、会議で話し合い、意見を出し合っている。又、日頃の記録に情報を書いてもらい、スタッフの聞き取りも行っている。	本人と家族の思いをアセスメントし、居室担当職員の意見を参考に、3か月毎に見直している。ユニット会議で内容を共有している。昼夜逆転の入居者に、日光浴を多くする等計画書に盛り込んだ。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の介護記録や連絡帳があり、全て把握できるようにしている。支援記録はケアプラン作成に活かしている。日々の情報交換や会議での話し合いの内容を反映させプランを作成している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	車椅子の方には介護タクシーを利用したり、苑車にて対応したりしている。通院が難しい方には往診を勧めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	オムツ券やタクシー券を利用して負担を少なくしている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間対応の往診を受けている方が多い。往診以外の方も、かかりつけ医の診察を月1回受けられるよう支援している。家族から依頼を受け、耳鼻科や整形外科受診も職員対応している。	本人と家族の了解を得て、3月から同じ訪問医療を受診することになった。眼科等他科受診は、職員が同行している。歯科医は月1～2回の来訪し、治療と口腔ケアの指導をしている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回訪問看護師が来所し、健康状態を見てくれる。それ以外でも24時間相談に応じてくれる。場合によっては往診の医師に連絡を取り、指示をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合はご家族様、医師と今後について話し合いの時間を持つようにしている。入院時に苑での情報提供している。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期についてホームでできる事、できないことの説明は、させてもらっている。往診と契約している方で必要な方は、医師と終末期について話をしてもらっている。	入居時に「重度化及び看取りの指針」と「看取りにおける確認事項」を本人と家族に説明している。重度化した場合は状態の変化に応じて、段階的に医師と家族、関係者で話し合いを行っている。看取りの経験はある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今までの事故を振り返り、事故の予測を考えていくことの話合いは出来ているが、実践力にかけるので定期的に研修等を開催したい。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	6月と11月に消防訓練2回実施し全職員と訓練している。	夜間想定を含め、年2回行った。拒否する方には、「外で空気を吸ってみよう」と声掛けした。署員から、台所のカーテンを不燃布にするよう助言があった。職員からは、避難者の優先順位を決める等の反省が出た。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	考慮しながら伝わりやすい言葉を選んで声掛けを行っている。拒否がある時は時間を置いたり、職員を変えて対応している。言葉使いが馴れ合いにならないように気をつけている。	苗字にさん付けである。本人と家族の希望で、名前にちゃんの方もいる。「買い物に行きたい」「以前の家にいきたい」等、希望が叶えられるように配慮している。飲み物やおやつは、好きな物を選んでもらっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	10時のお茶の時や、外食時には、何が良いのか選択していただいている。おやつも毎回ではないが、選択できるようにし本人の意思を聞くようにしている。したいことや、行きたい所も誕生日などに、叶えられるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室やリビング等で、個人で過ごしやすい場所で過ごしてもらっている。食事する時間や場所も希望に沿うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髭剃りや爪きりは、できない方は職員が支援している。衣類は希望によって職員同行して購入支援を行っている。訪問理美容にきてもらい、髪の毛も本人の好みで染めたり、カットしてもらっている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	じゃが芋や人参・玉ねぎなどの野菜の皮むきなどやっていた方が減ってきているが、盛り付け、食器拭きなど手伝っていただいている。	配食業者を利用している。月1回のご当地料理を、楽しみにしている。3食とも職員と一緒に食べる。大判焼き屋台の来所と、おやつのパンビュッフェは好評である。入居者から、きりたんぼ鍋の作り方を教わった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	心臓の病気の方は、体重の増減に関しては医師と相談し提供する量を決めている。個別にドリンクゼリー・ヨーグルト・卵豆腐等購入し、その方の身体に必要な補食を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。仕上げが必要な方は職員が介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使い、排泄のパターンを把握し、必要あれば、トイレ誘導をしている。自らトイレに行く場合はパットの確認をさせていただいている。	自立の方は14人でオムツ使用はない。食事前にトイレ誘導の声掛けをしている。夜間は3回見廻る。トイレ誘導やパッド交換を行うが、熟睡している場合は睡眠を優先し、その人に合わせた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時に牛乳や水を飲んでいただいている。腹部マッサージや温めを行っている。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	最低週2回は入浴していただけるよう声をかけさせていただいている。本人の状態や体調に合わせて、清拭等を行っている。	浴室と脱衣所は暖房を完備している。心地良く入れるように、ゆず湯や茶風呂等工夫している。拒否する方に、好きな曲をかけるなど工夫した。無口な方が昔の仕事をしたり、懐メロを歌う等楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	朝食後、昼食後、おやつ後と部屋で休みたい方には休んでいただいている。夜間眠れなくなる方は早めに起きていただくよう声掛けさせていただいている。本人のこだわりに合わせて、布団の好みや、室温を調整、湯たんぽ準備をして、眠りやすい環境を作っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬チェック表を作成して間違いのないようにしている。職員間でミスが起きないようにダブルチェックをしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除、洗濯物たたみ、食器拭き等の、その方のADLにあわせた役割をしてもらっている。買い物に行くことで気分転換になるので苑の買い物や本人の買い物をしてもらっている。花の好きな方は草取り、花植え、フラワーアレンジメントなどできるように支援している。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望時に外出出来ない時があるので、買い物や外出の予定を立てて出かけるようにしている。	外出の年間計画はあるが、コロナ禍で自粛している。ホームの広い駐車場に椅子を出し、白梅を鑑賞したり、芋煮会を行う等、外気に触れて外出気分を味わった。ベランダにテーブルを出し、お喋りしながら、ティータイムを楽しんでいる入居者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全員のおこづかいは苑の事務所で預かり、金銭管理をしている。買い物時は支払いができる方には財布を渡して支払ってもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたい時は事務所の電話を貸して話をしていただいている。家族からの贈り物にお礼の手紙を書いて送れるように支援している。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの壁には季節毎に壁飾りを貼って季節を感じていただいている。	入居者と職員が作成した、ちぎり絵の鬼が飾っており、季節感を出している。職員が持って来た花の苗を庭やプランターに植え、入居者が水遣りをしている。冷暖房完備で、加湿器を設置している。午前と午後に空気の入替えをし、換気と感染対策をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様同士の関係を配慮した席にしている。ソファの配置は利用者同士が話し易い位置にしている。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から使い慣れた家具や位牌を持って来てもらっている。家具を持ってきていない無いは、必要に応じて購入支援を行っている。	クローゼットとエアコン、ベッドが備え付けである。家族の写真を飾り、位牌を置いている方もいる。寒がりの入居者が、湯たんぽや電気毛布を使っている。名前の木札は、裏が避難済みの記し(赤字)になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室のドアに名札やカッティングシールの色で分かりやすくしている。又、トイレ・便所など個々に呼び方が違うため分かるようにしている。		